

子どものアレルギー対応

米粉クッキー備蓄開始

市、中越地震教訓に

長岡市は今月から、災害時の非常食として、食物アレルギーに対応した「米粉クッキー」の備蓄を始めた。2017年度末までに未就学児向けとして、1万1300食を備蓄する計画だ。市は「個々の事情にも配慮しやすい備蓄を進める」と話し、「食のバリアフリー」を目標としている。

04年の中越地震や11年の東日本大震災などでは、食物アレルギーのある人が避難所での食事に苦労する課題が浮かんた。米粉クッキーは、これを教訓に市内の洋菓子店と米粉販売加工会社が昨年開発した。



親子向けの防災講習会で並べられた米粉クッキーなどの災害食＝長岡市千歳1

アレルギーを引き起こす「特定原材料等」として厚生労働省が指定する卵や牛乳など27品目を使っておらず、全国の保育園などでおやつとして導入され始めている。

市は備蓄開始に合わせ、子育ての駅ぐんぐん（同市千歳1）で、家庭での食料備蓄の大切さなどをPRする講習会を開いた。人型ロボット「Pepper（ペッパー）」とともに

1などからその都度調達する方式を採用してきた。しかしアレルギー対応食品の流通はまだ少なく、災害時に供給網が途切れる危険性もあることから備蓄を始めた。

2人の子どもがいる市内の主婦35は「アレルギーの有無に関わらず安心して食べられる食品が備蓄され安心だ」と話した。

講習会に出席した森民夫市長は「子どもに優しい災害対策として長岡から発信したい。それが中越地震を経験した長岡市の責任だ」と話した。